

## 自民と旧統一教会 共鳴の半世紀

安倍晋三元首相が暗殺されて1ヶ月。事件の背景として、旧統一教会と政治、とりわけ自民党との深い関係が注目されている。

朝日7日は1面に教団票「10万票は切らない」旧統一教会が支えた安倍派候補、2面に表題など、24面に信者の献金問題見えづらくなどのタイトルが並ぶ。2面「政治保護求め、教団は晋三氏に近づいた」を抜粋して紹介したい。



祖父は岸信介元首相、父は安倍晋太郎元外相、日本政界を代表する一家の出身。2021年9月、教団の友好団体「宇宙平和連合」(UPF)が開いたイベントにビデオメッセージを寄せた安倍晋三氏を、団体側はそう紹介した。晋三氏は「UPF



主催のもと、より良い世界実現のための対話と諸問題の平和的解決のために、演説の機会を迎えたことを光栄に思います」とあいさつ。「韓鶴子総裁をはじめ皆さまに敬意を表します。家庭の価値を強調する点を高く評価します」「偏った価値観を社会革命運動として展開する動きに警戒しましょう」などと呼びかけた。

教団側は、この20年ほど政権与党の中心にいた晋三氏との関係を重視してきた。教団関係者はこれまでの朝日新聞の取材に、友好団体「世界平和連合」の幹部が窓口となり、晋三氏と連携してきたと説明。この7月に当選した晋三氏の元首相秘書官・井上義行氏ら、最近3回の参院選で安倍派系の候補を推薦し、当選に貢献していると主張している。いま教団やその友好団体と自民党議員らの接点が次々に明らかになっている。友好団体と関わりのある議員懇談会はこの6月に国会内で総会を開催。その場で諮られた役員案には清和会(安倍派)だけでなく、麻生派や岸田派などを含む30人近い自民議員が名を連ねた。ただ、多くの自民議員らは、教団と深くつながるのは清和会であり、その領袖の晋三氏だった証言する。

自民党関係者は「右派思想が色濃い清和会と教団は歴史的にも相性が良かった」。選挙に精通する別の党関係者は「教団の持つ組織票は、党ではなく清和会が差配していた」と言う。清和会出身の元議員は「教団は政治の保護を求めて晋三氏に近づいた」と話す。

国際勝共連合の機関誌「世界思想」の18年6月号は晋三氏の写真を表紙にあしらい、「歴代内閣を格付けする」と題する特集記事を載せた。「安倍政権を戦後政治史に位置づける試み」として、歴代内閣のうち5段階の最高位にあたる「A」評価をつけたのは、吉田茂、岸信介、中曽根康弘、安倍晋三の各内閣だった。

晋三氏が銃撃・殺害され、容疑者が教団への「恨み」を口にしたことから、改めて教団と政治との関わりに注目が集まり、実情が問われている。だが、自民党が広く党内の実態調査に動く様子はいまだ見えない。

(2022年8月9日)